

令和8年度

シラバス

SYLLABUS

介護福祉学科

2年生



健祥会学園
KENSHOKAI GAKUEN

目次

【領域：人間と社会】

チームマネジメント	1
社会保障制度	3
キャリア形成実践.....	5
介護福祉学総論	7

【領域：介護】

生活と介護.....	8
介護の倫理と自立支援	10
介護の多職種連携.....	12
休息・終末期の支援技術.....	14
福祉用具活用と災害時支援	16
障害の特性に応じた支援技術と応急手当	18
介護過程（居宅）	20
介護過程統合	22
介護総合演習（総合）	24
介護総合演習（発展）	26
介護実習（総合）	28

【領域：こころとからだのしくみ】

睡眠・終末期に関連したこころとからだのしくみ.....	29
成長と発達.....	31
高齢者の健康	32
障害の理解.....	34
障害のある人への支援	35

【領域：医療的ケア】

医療的ケア	37
-------------	----

【科目名】 チームマネジメント

【教員名】 細田 章

【教員の実務経験】 有

無（研究実績と高等学校教員の経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】 介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本、チームマネジメントの基礎的な知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 介護サービスの特性と求められるマネジメントについて説明できる。
2. 組織と運営管理について説明できる。
3. チーム運営の基本について説明できる。
4. 人材育成、管理方法について説明できる。

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】 なし

【成績評価】 定期試験（80%） 課題レポート その他（演習発表 20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	介護サービスの特性	介護サービスの4つの特性と他のサービスとの相違点について	細田 章
2	介護現場で求められるチームマネジメント	チームマネジメントとは何か	〃
3	介護実践におけるチームマネジメント	多様なチームマネジメントについて	〃
4	ケアを展開するために必要なチームとチームワーク	多様なチームとメンバーの相互関係について リーダーシップ、フォロワーシップの機能について	〃
⑤	ケアを展開するためのマネジメント	情報共有の様々な方法について 実際に介護施設で導入され運用されている業務支援システムを用いた演習	細田 章 ソフトウェア企業
⑥			
7	介護福祉職のキャリアと実践力	キャリアに応じた実践力について	〃
8	介護福祉職のキャリアデザイン	キャリアパスとキャリアデザインについて	〃
9	介護福祉職のキャリア支援、開発	自己研鑽を高める為の意識と効果について	〃
⑩	介護サービスを支える組織の構造	介護サービスを支える組織の存在について	細田 章 介護施設職員
11	介護サービスを支える組織の機能と役割	法令順守、理念や運営方針の共有について	細田 章
12	介護サービスを支える組織の管理	介護業務等の管理、人材育成について	〃
13	地域におけるチームマネジメント	地域連携・地域貢献について	〃

14	業務課題の発見	委員会活動を通じた課題の発見と解決方法についての討議	〃
15	業務課題の解決方法	委員会としての対策の提案・発表	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加し、多くの発言をすること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】 社会保障制度

【教員名】 上田 清人、盛 裕二

【教員の実務経験】 有

■無（介護福祉士の資格及び、実務経験のある教員（上田）、地域包括支援センター、居宅介護支援等相談業務、介護保険施設等管理者及び経験を有する 教員（盛）が講義を行う。）

【授業方法】 ■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 介護福祉学科・2年・後期

【必/選・単位数(時間数)】 必修・2単位 (30時間)

【授業概要と目的】 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。また、高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。

【到達目標】 学生は高齢者や障害者の福祉制度の基本的な考え方やしくみ、社会保障制度を理解し、現状と課題を理解できる。また、人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度、施策の基本的な考え方が理解できる。

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会:最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】 担当教員作成のレジメ・資料

【成績評価】 ■定期試験 (90%) 小テスト ■課題レポート (10%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	高齢者保健福祉と介護保険制度① 高齢者保健福祉の動向	高齢者保健福祉における施策の視点の移り変わり、社会的背景、今日的課題について理解する	上田清人
2	高齢者保健福祉と介護保険制度② 高齢者保健福祉に関する法体系	高齢者保健福祉に関連する法体系の概要、各法律の役割について理解する	〃
③	高齢者保健福祉と社会保障制度①	労働者に関連した保険制度について	上田清人 田中章公
④	高齢者保健福祉と社会保障制度②	年金、医療保険制度について	〃
5	障害者保健福祉と障害者総合支援制度① 障害者保健福祉の動向	障害者福祉制度における障害の概念や、障害者福祉の理念、その背景や歴史を踏まえて、障害者福祉の動向について理解する	盛 裕二
6	障害者保健福祉と障害者総合支援制度② 障害者保健福祉に関連する法体系	障害者保健福祉の法律の全体像を把握し、各法律における障害者の定義を理解する	〃
7	障害者保健福祉と障害者総合支援制度③ 障害者総合支援制度	自立支援給付と地域生活支援事業を理解する	〃
8	障害者保健福祉と障害者総合支援制度④ 障害者総合支援制度	障害者の生活を支える相談支援の重要性を理解する 介護保険制度と障害者総合支援法の比較を通して、制度内容を理解する	上田清人
9	介護実践に関連する諸制度① 個人の権利を守る制度・施策	4つの虐待防止法について比較して理解する 成年後見制度と日常生活自立支援制度について比較を通して理解する	〃

10	介護実践に関連する諸制度② 個人の権利を守る制度・施策	個人情報保護、第三者評価、苦情解決、不服申し立ての各制度・施策について理解する	〃
11	介護実践に関連する諸制度③ 保健医療に関する制度・施策	介護領域に隣接する保健医療や生活習慣病の予防、感染症の予防等の各制度・施策について理解する	〃
12	介護実践に関連する諸制度④ 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策	生活保護法の概要、生活困窮者自立支援法、その他の貧困対策、生活困窮者支援に関する制度・施策について理解する	〃
13	介護実践に関連する諸制度⑤ 地域生活を支援する制度・施策	就労支援・雇用促進に関する制度・施策について理解する	盛 裕二
14	介護実践に関連する諸制度⑥ 地域生活を支援する制度・施策	住生活を支援する、また、自殺を予防する制度・施策について理解する	上田清人
15	まとめ	後期まとめ・確認テスト	〃

【授業時間外の学習】 学習会・研修会・講演会等に多く参加し実践から学ぶこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は内容を理解することに努め、疑問点があれば積極的に質問すること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（上田・1号館事務室前）

【科目名】キャリア形成実践

【教員名】細田 章

【教員の実務経験】有

無（高等学校教員としての就職指導経験のある教員が演習を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】働くとはどういうことか、自身にとってどのような意味を持つかについて熟考し、目標実現に必要な事柄を明確にして職業人としてのキャリアデザインをする。企業訪問時の注意点や履歴書の書き方、面接の受け答えなど、就職活動や社会に出る際に必要な礼儀やマナー、敬語を習得する。介護福祉士として介護の啓発活動をし、地域交流にむけた企画を立てる。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 労働の社会的意義及び自身にとっての価値について熟考した上で、自身の将来像に向かって何をすべきか明確な計画を立てられる。
2. 自分自身を客観的に分析でき、根拠に基づいた履歴書作成と自己PRができる。
3. 時間管理や挨拶、敬語などの社会常識を身につけることができる。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート

その他（キャリアマップ提出 30%）（履歴書提出 30%）（模擬面接 40%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	新入生との交流	上級学年として新入生に自身の経験を話すことを通して自身の行動を振り返り、自身のキャリア形成について考える	細田 章
2	労働の社会的意義	労働の社会的意義について考える	〃
3	労働の価値	自身にとっての労働の価値について考える	〃
④	キャリアデザイン (将来像)	介護施設の管理職、中堅職員のキャリアパスについての経験を聞き、自身の将来の理想像について考える	細田 章 介護施設職員
5	キャリアデザイン (行動計画)	自身の将来の理想像実現のために必要な事柄を書き出し、キャリアデザイン各段階における具体的な行動計画を立てる	細田 章
6	キャリアデザイン (キャリアマップ 完成)	自身のキャリアマップを完成させる	〃
7	自己分析	自分自身を客観的に分析し、自分がどのような思考傾向にあるかを知るとともにリフレミングで短所を長所に変える	〃
8	求人票の見方、履歴書作成	求人票の見方と履歴書作成上の注意点について学習する	〃
9	履歴書作成①	自己PRや志望動機の書き方を学習する	〃
10	履歴書作成②	履歴書を作成する	〃
11	就職面接について考える	アポイントの取り方、挨拶、礼、敬語、話し方の注意点を学習し整理するとともに面接時の質問の本当の意図を知り、どう答えるべきか考える	〃

12	就職面接（模擬面接）①	模擬面接を行い就職試験に備える。また、雇用する側の視点で就職面接を考える	〃
13	就職面接（模擬面接）②	〃	〃
14	地域交流（企画）	介護百人一首を創作し介護の啓発を実施する	〃
15	地域交流	地域の方との交流が行えるような場を企画し、その実行に向けて準備する	〃

【授業時間外の学習】 敬語や話し言葉と書き言葉の使い分けを普段から意識して行うことを望む。学んだことをしっかり復習する。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。自分自身のことなので、正直に自分に向き合う努力を要す。提出物はその授業内で完成させて提出すること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】介護福祉学総論

【教員名】細田 章、上田 清人

【教員の実務経験】有

■無（高等学校教員の経験を有する教員（細田）、介護福祉士としての実務経験を有する教員（上田）が講義を行う。）

【授業方法】■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】選択・2単位（30時間）

【授業概要と目的】介護福祉士として必要な知識や技術面における留意点について確認を行いつつ要点を整理し、国家試験に必要な知識・技術について学習する。学習意欲を刺激し学んだことに加え読解力や理解力を身につけ、国家試験に必要な知識・技術について合理的・効率的に学習する。

【到達目標】国家試験における合格基準レベルの知識が習得できることを目標とする。

【教科書】

見て覚える！介護福祉士国試ナビ．中央法規出版，2027

受験ワークブック上・下．中央法規出版，2027

【参考書等】適宜紹介

【成績評価】定期試験 ■小テスト（50%） ■その他（模擬試験 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	試験①	模擬試験①	上田 清人
2			
3	試験②	模擬試験②	〃
4			
5	人間の尊厳と自立、コミュニケーション	人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術	細田 章
6	社会システム	社会の理解	〃
7	医療分野	こころたからだのしくみ、医療的ケア	〃
8	発達と老化の理解	発達と老化の理解	〃
9	認知症の理解	認知症の理解	〃
10	障害の理解	障害の理解	〃
11	介護の基本	介護の基本	〃
12	生活支援技術	生活支援技術	〃
13	介護過程	介護過程	〃
14	社会保障制度	社会保障制度	〃
15	総合問題	総合問題	〃

【授業時間外の学習】国家試験に備え日頃からの個別学習に取り組むこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】卒業要件（国家試験受験資格）における評価基準となるので注意すること。

【オフィスアワー】火曜日 16:30～17:30（細田：1号館事務室前）

【科目名】生活と介護

【教員名】遠藤 春香

【教員の実務経験】 有（介護福祉士資格及び実務経験を有する教員が演習を行う。）
無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】生活について基本的な理解を深める。そのうえで、介護を必要とする人の生活の個別性や多様性を理解することや社会との関わりについて考えることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. その人らしさや生活ニーズの多様性について理解し、それらを述べることができる。
2. 介護を必要としている人の生活のしづらさを、普段の生活や実習などを通して実際に理解することができる。
3. 家族介護者とその支援について理解することができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 定期試験（80%） 小テスト 課題レポート（20%） その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	私たちの生活の理解①	介護とは何かを考えることで生活を理解する	遠藤 春香
2	私たちの生活の理解②	生活と時間、空間、リズムについて 24 時間シートを活用して学ぶとともに、生活を構成する大切な要素や特性について理解する	〃
3	私たちの生活の理解③	自身の生活設計について考え、生活の理解を深める	〃
4	生活の個別性と多様性	介護福祉を必要とする人の暮らしを理解するために、生活史について考え、その多様性やその人らしさの理解する	〃
5	生活のしづらさの理解とその支援①	高齢になっても、障がいがあっても地域生活を継続していけるように、住んでいる地域のもつ文化や特性、地域資源について調べ学習を行う	〃
6	生活のしづらさの理解とその支援②		〃
7	高齢者の暮らし①	実習で受け持った利用者様の生きてきた時代や文化について、調べ学習を行う。また、歴史を聴く場合の注意点を理解する	〃
8	高齢者の暮らし②	実習で受け持った利用者様の生きてきた時代や文化について、調べたことをグループで発表、共有する	〃
⑨	高齢者の暮らし③	高齢者の生きてきた時代や文化について、近隣施設の利用者様から学ぶ	遠藤 春香 施設職員
10	生活のしづらさの理解とその支援③	災害時における事例（視覚・聴覚障害・肢体不自由の方など）を検討し、生活のしづらさの理解と支援について考える	遠藤 春香
11	障害者の暮らし①	事例検討①障害をもった人の暮らしを支える介護について考える	〃
12	障害者の暮らし②	事例検討②障害をもった人の暮らしを支える介護について考える	〃

13	家族介護者への支援	家族介護者とその支援について理解する	〃
⑭	要介護者を取り巻く状況	老後生活と生活設計、課題、消費者保護について学ぶ	警察署員 遠藤春香
15	介護福祉を必要とする人の理解	これまでの授業や実習での学びを踏まえて、介護を必要とする人の生活について考える	〃

【授業時間外の学習】 自分自身の生活に目を向けること。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 板書以外にもメモをとりながら講義を受けること。個人、グループワークでは意欲的に取り組むこと。提出を求める課題については、その期限を厳守すること。

【オフィスアワー】 毎週水曜日 12:30～13:00（1号館事務室前）

【科目名】介護の倫理と自立支援

【教員名】河野 和代、森下 照大

【教員の実務経験】■有（介護福祉士の資格（河野）、理学療法士の資格（森下）及び実務経験を有する教員が講義を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】本授業は、介護に携わる人がもつべき職業倫理を学ぶ。普遍的な倫理判断の視点を学び、それがさまざまな介護の場面でどういさせるかを介護者の態度を含めて考える。また、自立支援における利用者の意思決定を支える方法、自立におけるエンパワメントと ICF の意義について理解する。加えて、自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を学習する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 介護に携わる人がもつべき職業倫理を理解し、普遍的な倫理判断の視点を学び、それがさまざまな介護の場面でどういさせるかを考え、述べることができる。
2. 日本介護福祉士会の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する。そして、介護福祉士に求められる専門職の態度について、自分の考えを述べるができる。
3. 自立支援と介護予防の基本的な考え方を述べることができ、障害の特性に応じたレクリエーションが実践できる。
4. 自立支援とリハビリテーションの基本的な考え方を理解し、介護予防における介護福祉士の役割、連携の在り方について自分の考えを述べるができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座3 介護の基本I 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験（100%） □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 介護福祉士の倫理①	シラバスの説明、介護福祉士の倫理とは	河野 和代
2	介護福祉士の倫理②	ケース1、2、3の事例を用いて倫理判断視点を考える、プライバシーの保護と介護の倫理	〃
3	介護福祉士の倫理③	身体拘束について、日本介護福祉士会の倫理綱領	〃
4	介護福祉士の倫理④	高齢者虐待防止法について、グループワーク	〃
5	介護福祉士の倫理⑤	障害者虐待防止法について、グループワーク	〃
6	介護福祉士の倫理⑥	不適切ケアについて、グループワーク	〃
7	介護福祉士の倫理⑦	事例を用いて、介護者の態度を考える①	〃
8	介護福祉士の倫理⑧	事例を用いて、介護者の態度を考える②	〃
9	介護福祉士の倫理⑨	介護実習を振り返り介護の倫理、対応について考える グループワーク	〃
10	自立支援とは	自立支援の考え方、個別支援の実践例	〃
11	自立支援と介護予防	介護予防における介護福祉士の役割	〃

12	自立支援とリハビリテーション①	リハビリテーションの概念と実際 リハビリテーションのなかでの自立の捉え方	森下 照大
13	自立支援とリハビリテーション②	高齢者の身体特性と介護予防	〃
14P	自立支援とレクリエーション①	障害の特性を考慮したレクリエーション演習	河野 和代
15P	自立支援とレクリエーション②	障害の特性を考慮したレクリエーション実践発表、まとめ	〃

【授業時間外の学習】

- ・毎日のニュースや新聞から、介護に関する情報を意識して得て、自分の介護観を構築していけるよう努めること。
- ・介護福祉士の倫理とは何か、自己の考えを述べられるよう文献学習をすること。
- ・予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・対人援助を行う介護職にとってグループワークを用いた学びは必要であると考えます。グループワーク時は自己の考えを述べ、他者の意見に耳を傾け、主体的に学習すること。
- ・課題レポート等の提出期限は必ず守ること。
- ・授業中は集中して学習に取り組めるよう、日々の生活習慣を整えること。また、他者の学習の妨げになる行為はしないようにすること。

【オフィスアワー】 毎週水曜日の放課後 16:30～17:30（河野・1号館事務室前）

【科目名】介護の多職種連携

【教員名】佐藤 淳史

【教員の実務経験】 ■有（介護福祉士の資格及び実務経験を有する教員が講義を行う。）
□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解する。また、多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解することを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことをすることができる。

1. 多職種連携・協働の目的と効果について、述べることができる。
2. 課題解決に対する多職種のかかわりには、多様な視点と必要であることを理解し、多職種協働に求められるコミュニケーション能力について、述べることができる。
3. 介護福祉職と協働するさまざまな専門職の役割と機能について、述べるすることができる。
4. 専門職連携実践の内容と実践のタイプを理解し、介護福祉職からみる連携の実態から専門性を理解する。また、介護福祉職主導の連携の実態を学び、多職種連携における介護福祉士の役割と機能について、自己の考えを述べることができる。

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版. 中央法規出版, 2022

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 ■定期試験（90%） □小テスト ■課題レポート（10%） □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	フォーマルな支援の活用①	介護保険制度におけるサービス提供の仕組み	佐藤 淳史
2	フォーマルな支援の活用②	介護保険制度における組織・団体	〃
3	フォーマルな支援の活用③	介護給付（居宅・施設サービス）	〃
4	フォーマルな支援の活用④	介護給付（地域密着型サービス） 予防給付・地域支援事業	〃
5	フォーマルな支援の活用⑤	介護保険制度の変遷	〃
6	フォーマルな支援の活用⑥	障害者総合支援法（介護給付・訓練等給付） フォーマルサービスに関するまとめ	〃
7	サービス提供と多職種連携①	多職種連携・協働の必要性	〃
8	サービス提供と多職種連携②	介護実践の場での多職種連携・協働	〃
9	サービス提供と多職種連携③	多職種協働とホスピタリティ的視点	〃
10	サービス提供と多職種連携④	多職種協働に求められるコミュニケーション能力	〃
11	多職種協働①	専門職の役割	〃

12	多職種協働②	介護福祉士の専門性について理解する	〃
13	保健医療福祉職の役割	理学療法士、作業療法士、保育士等様々な職種の立場からの意見を聞き、介護現場における多職種連携・協働について考える	佐藤 淳史 学内他学科 教員
14	多職種連携・協働の実際①	サービス担当者会議を通じて多職種連携を理解する	〃
15	多職種連携・協働の実際②	自立支援介護における多職種連携の実際	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 板書以外にもメモをとりながら集中して講義を受けること。個人、グループワークでは意欲的に取り組むこと。他者の意見を傾聴し、自己の考えを伝えることができるよう、グループワーク時には、コミュニケーション技術にも努めること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】 休息・終末期の支援技術

【教員名】 遠藤 春香、河野 和代

【教員の実務経験】 ■有（介護福祉士資格及び実務経験を有する教員が演習を行う。）
□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】 介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】 本授業は、「休息・睡眠」と「終末期」の介護について学習する。「休息・睡眠の介護」では、健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学習する。「終末期の介護」では、人生の最終手段にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する学習とする。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 休息・睡眠の意義と目的、基本となる知識と技術について述べるができる。
2. 自立に向けた休息・睡眠の介護の視点と留意点について述べるができる。
3. 人生の最終段階にある人の介護の視点と留意点について述べるができる。
4. 人生の最終段階を支えるための基本となる知識と技術について述べるができる。
5. 人生の最終段階の介護における多職種の役割と協働、家族が「死」を受容する過程について述べるができる。

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版. 中央法規出版, 2022

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版. 中央法規出版, 2022

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】 適宜資料配付

【成績評価】 ■定期試験（50%） □小テスト □課題レポート ■その他（実技確認 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	休息・睡眠とは	休息・睡眠の意義目的、効果や睡眠障害について	河野 和代
②	安眠を阻害する要因	心地よい眠りを支える介護、良い活動に繋がる休息を支える介護について	睡眠健康指導士 遠藤 春香
3	休息・睡眠の介護①	（講義・実技）休息と睡眠の環境整備、安楽な姿勢について①	河野 和代
4	休息・睡眠の介護②	（実技）休息と睡眠の環境整備、安楽な姿勢について②	〃
5	休息・睡眠の介護③	事例を通して、休息と睡眠の環境整備、安楽な姿勢について実技確認を行う	河野、佐藤 上田、遠藤
⑥	休息・睡眠の介護④	（実技）ハンドマッサージ リラクゼーションの工夫、安眠を促す方法	外部講師 遠藤 春香
7	人生の最終段階とは	人生の最終段階にケアを行う意味	〃
8	人生の最終段階にある人への介護の役割①	尊厳の保持、生きることを支える介護	〃
9	人生の最終段階にある人への介護の役割②	意思決定支援、家族や近親者への支援	〃
10	人生の最終段階にある人への介護の役割③	人生の最終段階におけるアセスメント項目と視点（ACP、事前指示書作成）	〃

⑪	死を迎える人の介護	臨終に向かうプロセスと生活支援、環境整備について	介護施設職員 遠藤 春香
12	死が近づいた時の介護	急変時の対応と多職種との連携の視点、家族への支援	遠藤 春香
13	死を迎えた人の介護①	(講義・実技) 死後のからだを整える、エンゼルケアについて	〃
14	死を迎えた人の介護②	(実技) 死後のからだを整える、エンゼルケアについて	〃
15	亡くなったあとの介護	グリーフケア、デスカンファレンスについて	〃

【授業時間外の学習】 テキスト以外に多くの文献に触れ、生きることや死を迎えること、そして自分の人生について考えること。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・授業中は、集中して学習に取り組めるよう、日々の生活習慣を整えること。また、他者の学習の妨げになる行為はしないようにすること。
- ・グループワーク時には積極的に参加し、ディスカッションすること。

【オフィスアワー】 毎週水曜日 12:30～13:00 (1号館事務室前)

【科目名】福祉用具活用と災害時支援

【教員名】河野 和代、河野 磨

【教員の実務経験】 ■有（介護福祉士の資格及び実務経験を有する教員（河野和代）、防災士としての経験を有する教員（河野磨）が講義を行う。）

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、利用者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識や技術を学ぶ。また、災害時の介護福祉士の役割、災害時に介護福祉士が活動する場所、生活支援、多職種協働等について学習する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 高齢者や障害者の身体機能や心理状態、取り巻く環境を学び、適切な福祉用具を選択・活用できる生活支援技術について修得できる。
2. 個々の利用者の困りごとを考え、自助具を作製することができる。
3. 被災地で活動する際の心構え、あるべき支援者の姿を修得できる。
4. 災害時に介護福祉士が活動する場所、生活支援、多職種協働の必要性と役割について述べるができる。

【教科書】

介護福祉士養成施設編集委員会編集：新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術I 第2版. 中央法規, 2022

【参考書等】配付資料

【成績評価】 ■定期試験（60%） ■小テスト（10%） ■課題レポート（10%） ■その他（自助具作製20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	福祉用具の意義	オリエンテーション 生活支援における福祉用具の重要性、福祉用具の種類	河野 和代
②	介護現場の生産性向上とは	介護ロボットの開発・活用にみるこれからの福祉用具の可能性（プレゼンテーション見学）	健祥会プレゼンテーション 河野 和代
③	福祉用具の種類 適切な福祉用具を選ぶための視点	介護ロボットや福祉機器の説明・見学・体験	福祉用具販売業者 河野 和代
④	自動車の乗降介助について	自動車の乗降介助方法（リフト車含む）	介護施設職員 河野 和代
5	自助具について①	自助具とは、自助具を作ってみよう	河野 和代
6	自助具について②	自助具作製	河野 和代
7	自助具について③	自助具の発表	河野・佐藤 上田・遠藤
⑧	災害時における健康リスク	災害時への備え、災害時の健康リスク	大塚製薬株式会社
9	災害時における生活支援①	災害とは	河野 磨
10	災害時における生活支援②	避難と避難行動	〃
11	災害時における生活支援③	防災訓練図上演習	〃
12	災害時における生活支援④	避難所と避難所運営	〃

13	災害時における生活支援⑤	AEDの使い方（一次救命処置）	〃
14	災害時における介護とその実際①	介護施設での災害時の対応を考える	河野 和代
⑮	災害時における介護とその実際②	介護施設での災害時の対応を考える（ロールプレイ）、福祉避難所について、まとめ	介護施設職員 河野 和代

【授業時間外の学習】 講義で習った専門用語や内容を確認し、ノートにまとめる。予習、復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 まじめに受講し、講義内容の理解に努める。外部講師に対して、挨拶、礼儀を行い、職業人としての姿勢を身につける。福祉用具や介護ロボットなど機器を使用する際は丁寧に扱うこと。グループ学習では、主体的に参加すること。提出物は期限を守ること。

【オフィスアワー】 毎週水曜日 16:30~17:30（河野和代・1号館事務室前）

【科目名】障害の特性に応じた支援技術と応急手当

【教員名】細田 章、近久 勝彦

【教員の実務経験】有

■（研究実績と高等学校教員の経験を有する教員（細田）、地域活動支援センターの施設長（近久）が演習を行う。）

【授業方法】■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】障害の原因、病態、予後、障害者の身体機能や心理を理解し、尊厳の保持や自立支援の観点から、豊かな生活実現のため、障害の特性に応じた介護支援技術について学ぶ。また、応急手当についても学ぶ。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 障害に応じた身体機能や心理、生活支援技術について修得できる。
2. 高齢者・障害者に起こりやすい事故とその予防の視点を学び、緊急時における連携のあり方を説明できる。
3. 様々な障害を有する人への支援において、多職種連携の中で介護福祉士の役割を説明できる。

【教科書】

介護福祉士養成施設編集委員会：最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版、中央法規出版、2022

介護福祉士養成施設編集委員会：最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】配付資料

【成績評価】■定期試験（90%）小テスト 課題レポート ■技術確認（10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	内部障害①	心臓、呼吸器、腎臓機能障害に応じた介護	細田 章
2	内部障害②	膀胱・直腸、小腸、肝臓機能障害、HIVに応じた介護	〃
3	難病①	ALS、筋ジストロフィーに応じた介護	〃
4	難病②	パーキンソン病、関節リウマチに応じた介護	〃
5P	応急手当	応急手当についての知識について（講義）	〃
6	応急手当の実際	応急手当の技術の実践	〃
7	知的障害、精神障害、重症心身障害	知的障害、精神障害、重症心身障害に応じた生活支援と環境整備、介護技術の展開、他職種との協同・連携	〃
8	高次脳機能障害	高次脳機能障害に応じた生活支援と環境整備、介護技術の展開、他職種との協同・連携	〃
9	発達障害	発達障害に応じた生活支援と環境整備、介護技術の展開、他職種との協同・連携	〃
10	聴覚・言語障害の理解	聴覚・言語障害の特徴とコミュニケーション手段や用具、補装具を理解する	近久 勝彦
11	聴覚障害者への生活支援	どのような場面でどのような支援が必要か考える	〃

12	重複聴覚障害者の理解	盲ろう者の特性と生活上の困難、制約を理解する	〃
13	視覚障害の理解	視覚障害について医学的・心理的側面から理解する	細田 章
14	視覚障害者の生活上の困りごと	介護技術の展開（移動介助、歩行誘導、コミュニケーションに関する支援）	〃
15	視覚障害がある人への生活支援	技術確認	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加・発言をし、自身のこととして深く考えることを求める。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1 号館事務所前）

【科目名】介護過程（居宅）

【教員名】佐藤 淳史

【教員の実務経験】■有（介護福祉士、介護支援専門員の資格及び実務経験を有する教員が演習を行う。）
□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】要介護者の生活の継続を可能にするためのケアマネジメントについて理解したうえで、介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性について学ぶ。また、チームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を理解し、チームアプローチによる利用者支援の実際について理解を深める。さらに利用者が在宅生活を継続するための介護過程の事例を通して、要介護者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. ケアマネジメントとは何かを説明できる
2. ケアマネジメントの理念と目的を説明できる
3. ケアプランと個別援助計画の関係性を説明できる
4. チームアプローチにおける介護福祉士の役割と多職種連携の重要性を説明できる
5. 在宅生活を継続する利用者への根拠に基づいた介護計画を立案することができる

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版. 中央法規出版, 2022

【成績評価】■定期試験（50%） ■課題レポート（10%） ■その他（演習発表 10%、演習課題 30%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	ケアマネジメントの全体像①	ケアマネジメントの定義・歴史的背景・理念・目的について解説する	佐藤 淳史
2	ケアマネジメントの全体像②	サービス利用から終結までの流れを知り、そのプロセスごとで実施すべきことについて解説する	〃
3	ケアプランと個別援助計画の関係性①	ケアプランと個別援助計画の関係性について解説し、多職種協働によるチームケアの重要性について解説する	〃
4	ケアプランと個別援助計画の関係性②	ケアプランに基づいて、チームとして介護過程を展開する意義について解説し、ケアカンファレンスにどのような利点があるのかを考える	〃
5	介護過程演習①	事例を読み合わせ、Aさんについて共通理解を図り、学生個々に予習すべきことをまとめる	〃
6	介護過程演習②	在宅生活を継続するための介護過程（基本情報の作成）	〃
7	介護過程演習③	在宅生活を継続するための介護過程（24時間シートの作成）	〃
8	介護過程演習④	在宅生活を継続するための介護過程（ICF立ち上げシートの作成）	〃
9	介護過程演習⑤	在宅生活を継続するための介護過程（医学モデル、社会モデルの作成）	〃
10	介護過程演習⑥	在宅生活を継続するための介護過程（個別計画の展開）	〃
11	介護過程演習⑦	在宅生活を継続するための介護過程（ケースカンファレンスの実践）	〃

12	介護過程演習⑧	在宅生活を継続するための介護過程(修正された個別計画の報告)	〃
13	チームアプローチの意義①	チームアプローチの必要性を知り、チームにおける介護福祉士の役割や連携する専門職の視点について事例を通して考える	〃
14	チームアプローチの意義②	事例を用いて、利用者の生活状況の変化に対応するために介護福祉士としてどのように対応するのか、その職域を理解し、多職種とどのように連携していくかを考える	〃
15	介護過程とケアマネジメント	居宅サービス、施設サービスにおける介護過程とケアマネジメントの関係性を通して、多職種連携によるチームケアについて考える	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習には各1時間程度を要する。介護過程は、「人間理解」「社会保障制度」「こころとからだのしくみ」など、介護領域以外の科目で習得する知識を統合しなければ展開することができない。したがって、特に未履修科目についてテキスト等を読み、事例に関する最低限の知識を得て授業に望むこと。

【履修条件・注意事項】 授業に必要なテキスト・筆記用具を必ず持参すること。資料は適宜配付するので、必要に応じてノートを取り、ファイリングすること。事例検討などでは宿題を出す場合がある。演習では積極的に発言を行い、役割を果たすこと。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30~17:00 (1号館事務室前)

【科目名】介護過程統合

【教員名】河野 和代

【教員の実務経験】■有（介護福祉士、介護支援専門員の資格を有し、介護福祉士としての実務経験のある教員が演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】本授業は、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことを目的とする。要介護者本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 対象となる人の能力を引き出し、本人が望む生活支援の視点で介護過程の展開をし、根拠とともに他者にわかるよう説明ができる。
2. 介護過程の展開を支える考え方として、セルフケア理論、ニーズ論、ICFの視点、ストレングスの視点、ナラティブアプローチ等について、述べるができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験（70%） □小テスト □課題レポート ■その他（W事例の介護過程展開様式30%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション、事例の理解	シラバスの説明、災害後の支援を考える	河野 和代
2	事例による介護過程の展開①	W事例：事例の理解、基本情報、全体像を捉える	〃
3	事例による介護過程の展開②	W事例：ICFの11分類表、生活課題の明確化	〃
4	事例による介護過程の展開③	W事例：医学モデル・社会モデル、意欲、主目標	〃
5	事例による介護過程の展開④	W事例：介護計画書立案	〃
6	事例による介護過程の展開⑤	W事例：介護計画書立案、介護過程の展開を振り返る	〃
7	事例の理解	K事例、終末期ケアについて考える	〃
8	事例による介護過程の展開⑥	K事例：終末期の状態を理解する、基本情報	〃
9	事例による介護過程の展開⑦	K事例：全体像を捉える	〃
10	事例による介護過程の展開⑧	K事例：11分類表によるアセスメント、生活課題の明確化	〃
11	事例による介護過程の展開⑨	K事例：医学・社会モデル、意欲、主目標	〃
12	事例による介護過程の展開⑩	K事例：介護計画書立案①	〃
13	事例による介護過程の展開⑪	K事例：介護計画書立案②	〃

14	事例による介護過程の展開⑫	K 事例：根拠に基づいた生活支援技術の実施	〃
15	事例による介護過程の展開⑬	K 事例：介護の実施、根拠に基づいた生活支援技術の実施、評価、まとめ	〃

【授業時間外の学習】

- ・本授業は、災害によって生活環境を大きく変化せざるをえなかった高齢者と在宅でターミナルを迎える高齢者と家族支援の2事例を学習する。在宅介護の利点、課題を考えること。加えて、人生の最終段階における介護の役割や多職種連携について、文献学習をすること。
- ・本授業は介護過程の統合の授業である。他科目で学習した知識や技術を連動し統合して考えることができるよう、しっかりと予習、復習等自己学習をすること。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】

- ・利用者主体の支援を行うには、どうすればよいかを常に考えること。介護者としての知識や技術、倫理観を統合し、思考・判断できるように努めること。
- ・演習では、積極的な参加を求める。他者の発言に耳を傾け、自己の考えを他者に伝える技術、またチームワークの大切さについての演習の中で学ぶこと。
- ・グループワークでは、グループメンバー全員で話し合い、計画的に協力して行えるよう努めること。
- ・発表時は、他者にわかるように伝えるにはどうしたらよいかを考え、プレゼンテーション力も高める努力をすること。
- ・課題の提出は、期限を守ること。

【オフィスアワー】 毎週水曜日の放課後 16:30～17:30 (1号館事務所前)

【科目名】介護総合演習（総合）

【教員名】遠藤 春香

【教員の実務経験】有

無（介護福祉士資格及び経験を有する教員が演習を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。
2. 自己の実習目標、実習計画を上げることができる。
3. 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。
4. 事例研究の意義と目的を理解し学習することができる。
5. 自身の介護観・倫理観を述べるることができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習．中央法規出版，2022

【参考書等】介護実習要綱など

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート（80%） その他（課題発表 20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	介護実習（総合）の意義・目的①	介護実習（総合）の意義・目的・内容を理解する	遠藤 春香
2	介護実習（総合）の意義・目的②	実習事前指導、履修について実習要綱を基に理解する	〃
3	事例研究の進め方①	過去の事例を参考にし、事例研究の進め方を理解し、テーマの選出を行う①	〃
4	事例研究の進め方②	過去の事例を参考にし、事例研究の進め方を理解し、テーマの選出を行う②	〃
5	ケースカンファレンス	事例を通してケースカンファレンスの目的と内容を理解する	〃
6	介護過程について	事例を通してアセスメント、介護実践や評価について理解する	〃
7	記録について	介護に伴う記録の重要性・ポイントについて理解する	〃
8	実習に関する基礎知識	自分が関心を持っている介護方法や介護が必要となりやすい疾患、コミュニケーションツールなど	〃
9	実習に臨む姿勢	実習事前指導	〃
10	介護実習（総合）途中経過振り返り	実習中に展開している介護過程や実習全体を振り返る①	〃
11	介護実習（総合）途中経過振り返り	実習中に展開している介護過程や実習全体を振り返る②	〃

12	介護実習（総合）振り返り①	実習全体を通しての学びを記録にまとめ、自己評価を行う	〃
13	介護実習（総合）振り返り②	実習中に展開した介護過程について振り返る	〃
14	専門職としての態度を養う	実習を通して形成された自身の介護観や実習を通して考えた倫理、尊厳について振り返る	〃
15	介護実習（総合）まとめ	実習を通して考えた倫理・尊厳についてまとめ、グループで発表し合い、共有する	〃

【授業時間外の学習】 実習に向けて自身の課題を明確にし、自己学習を行う。予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。板書以外にもメモをとりながら講義を受けること。個人、グループワークでは意欲的に取り組むこと。提出を求める課題については、その期限を厳守すること。

【オフィスアワー】 水曜日 12:30～13:00（1号館事務室前）

【科目名】介護総合演習（発展）

【教員名】遠藤 春香

【教員の実務経験】有

無（介護福祉士資格を及び経験を有する教員が演習を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（30時間）

【授業概要と目的】質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解することを目的とする。これまでの学習と実習から修得してきた知識と技術を統合し、実習や学習の総まとめとして、介護実習（総合）で学んだことについて振り返りを行い、個々にテーマを決めて自分の主張したいことを分かりやすくポスターと発表原稿にまとめ、プレゼンテーション力を磨くことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 介護実習での事例について、培ってきた知識と技術を統合し、論理的でわかりやすくまとめることができる。
2. 発表するためのプレゼンテーション力の向上を図り、限られた時間の中で聞き手を意識した表現力を発揮することができる。
3. 様々な事例発表に対して、実習と学習で蓄積した経験と知識を統合し、自分の考えで意見をまとめることができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート その他（発表資料作成・準備・発表 100%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	知識と技術の統合化①	介護過程の重要性について① 介護実習（総合）を振り返る	遠藤 春香
2	知識と技術の統合化②	介護過程の重要性について② 実習での記録物を活用し振り返り、まとめを行う	〃
3	知識と技術の統合化③	質の高い介護に向けた実践研究について解説し、介護実習（総合）での実践から学んだことをどのようにまとめるのかを説明する	〃
④	発表方法	介護実践発表のあり方について学習する。ポスター発表の要項や過去のポスターを見て、ポスターの作成ポイントや方法を考える	介護施設職員 遠藤 春香
5	介護実習（総合）の振り返り	実習記録、介護過程展開様式、メモ等をすべて読み返し、実習での学びについて振り返る。発表資料を作成するにあたり、自分がどのようなまとめを行うのか、事例を参考に考える	遠藤 春香
6	テーマの決定	介護実習（総合）で学んだことについて最も伝えたいことを選び、発表するテーマを決定する	〃
7	事例発表準備①	結論のアウトラインを作成し、担当教員へ相談、あるいは提出する	〃
8	事例発表準備②	結論について各担当教員が確認のうえ、内容に応じて助言、場合によっては口頭試問を行い、修正を図り、矛盾のない序論を作成する	〃

9	事例発表準備③	対象となる利用者についてICFを参考にどのような方であるかが分かるように提供する情報をまとめる	〃
10	事例発表準備④	どのような方法を用いて、どのような結果が得られ、得られた結果からどのように自己評価したのかをまとめ、ポスターの構成や配置を下書きする	〃
11	事例発表準備⑤	各担当教員が下書きを確認し、修正すべき点や協調すべき点などについて助言し、ポスター作製に着手する	〃
12	事例発表準備⑥	ポスター作製、修正	〃
13	事例発表準備⑦	少人数のグループで発表の練習を行い、互いに助言を行いながら、原稿の修正や発表方法を工夫する。設定時間に近い時間で終わられるように、原稿や資料を修正する	〃
14	事例発表準備⑧	会場準備、会場での発表の練習を行う。	〃
15	事例発表	ポスターセッションを行い、自他ともに学びを深める	遠藤 春香 介護福祉学科教員

【授業時間外の学習】 予習及び復習には各1時間程度を要する。介護実習関連資料は、学園で保管するので、授業中ならびに放課後に申し出があれば本人の資料を貸し出すが、下校するまでに必ず教員に返却すること。作成したポスターと原稿の整合性の確認を行い、次回授業で修正すること。発表時間を十分に活用して発表ができるようプレゼンテーションの練習を行うこと。

【履修条件・注意事項】 介護実習（総合）での実践からの学びを十分に振り返り、何を伝えたいのかを明確にしておくこと。巡回教員からの助言を基に作成すること。提出期限を守ること。授業に真剣に取り組む、他の学生の発表に対しても意見をもつこと。介護実習関連資料は学園で保管する。

【オフィスアワー】 水曜日 12:30～13:00（1号館事務室前）※各担当教員に確認のこと

【科目名】介護実習（総合）

【教員名】遠藤 春香、河野 和代、細田 章、佐藤 淳史、上田 清人

【教員の実務経験】有

■無（介護福祉士の資格及び経験を有する教員（河野、佐藤、上田、遠藤）、教育経験を有する教員（細田）が実習指導行う。）

【授業方法】講義 演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・5単位（225時間）

【授業概要と目的】これまでの授業や介護実習で学習した知識や技術を知恵に変えることができる実践力を養い、厚生労働省が示す「求められる介護福祉士像」を目指し介護実習に取り組むことで、介護観を形成し専門職としての自覚や態度を養うことができる。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 「なぜ、その方法で行うのか」という根拠を理解し、個々に応じたコミュニケーション方法や生活支援技術を習得することができる
2. 受け持ち利用者の思いや願いを理解し、生活課題の明確化、介護計画の立案、実施、評価までの介護過程を展開することができる
3. 介護福祉士としての自覚が芽生え、カンファレンスで自己の考えを述べるることができる

【教科書】なし

【参考書等】介護福祉実習要綱、適宜資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート 出席状況

■その他(自己評価・施設評価・記録等 100%)

【授業計画】

1. スーパービジョンを受けながら、安全性、快適さ、自立に配慮した、その人らしさを支えるコミュニケーション方法、生活支援技術を主体的に実践し学ぶ
2. スーパービジョンを受けながら、利用者様と介護過程の展開を通して関わる中で、本人の思いや願いに気づき、本人の望むより良い生活の実現と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ
3. 実習での学びや介護過程の展開について日々記録に残し、記録すべき内容を見定めて、誰が見ても分かりやすい文章で残すことができるようにする。また、次への課題に気づき学びが深まるような適切な記録方法について学ぶ
4. 実習生が主体的にカンファレンスの準備や進行、発表を行い、カンファレンスの意義や方法を学ぶ。また、実習指導者や教員からの助言、指導を受け、自身の実習への取り組み方や次への課題に気づくことができる。
5. 実習生が主体的にカンファレンスの準備や進行、発表を行い、カンファレンスの意義や方法を学ぶ。また、自身の実習への取り組み方や次への課題に気づくことができる。
6. サービス担当者会議やケースカンファレンス、委員会活動等の参加を通して、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ
7. 利用者と家族、地域との良好な人間関係やつながりをもつために、施設や介護福祉士がどのような役割を担っているのか、実習施設の概要や取り組みについて学ぶ

【授業時間外の学習】実習に向けての事前学習、実習中や終了後も継続して自己の課題に応じた学習を行うこと。

【履修条件・注意事項】介護実習要綱の第2章「介護実習生への事前指導」、第3章「介護実習の履修」に関することを理解したうえで臨むこと。

【オフィスアワー】施設実習巡回時、帰校日

【科目名】睡眠・終末期に関連したところとからだのしくみ

【教員名】細田 章

【教員の実務経験】有

無（研究実績と高等学校教員の経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】

1. 睡眠は生命維持をするうえで必要不可欠だと考えられている。生理的欲求としての睡眠に関する基礎知識を身につけ、睡眠とストレスや環境との関連を学び、睡眠障害の観察力を身につけることができる学習とする。また、加齢により睡眠時間や睡眠の構造がどのように変化していくか理解し、睡眠障害における対処方法について学ぶ。
2. 終末期を迎えた人のところとからだの状態（危篤・死亡時）について理解し、死を迎えた人の介護に際して医療職との連携について学習する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 生理的欲求としての睡眠に関する基礎知識が身につくことができる。
2. 加齢により睡眠時間や睡眠の構造がどのように変化していくか理解できる。
3. 睡眠とストレスや環境との関連を学び睡眠障害の観察ができる。
4. 高齢者の睡眠障害について理解し対処方法について述べるができる。
5. 人の死をどのようにとらえるかを学ぶ。
6. 終末期を迎えた人のところとからだの状態、危篤時の状態、死亡時のからだの状態について理解することができる。
7. 死を迎えた人の介護に際して、医療職との連携について知ることができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 11 ところとからだのしくみ 第2版、中央法規出版、2022

【参考書等】適宜紹介する。

【成績評価】定期試験（100%） 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	休息・睡眠に関連したところとからだの基礎知識	休息・睡眠の意義	細田 章
2		睡眠のしくみ（睡眠周期・調節・体温と睡眠、ホルモンと睡眠）	〃
3			〃
4	心身機能と睡眠	休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下	〃
5		睡眠障害について	〃
6		睡眠不足が及ぼす影響	〃
7	睡眠における変化の気づきと対応	睡眠における睡眠における観察ポイントと医療職との連携、緊急対応	〃
8	人生の最終段階における死のとらえ方	死のとらえ方	〃
9		看取りに関わる人の価値観と終末期とターミナルケアのポイント	〃
10	死に対するところの理解	死生観と死の受容、	〃
11		グリーフケア	〃
12	終末期から危篤状	終末期の身体機能の特徴	〃

13	態死後のからだの理解	臨終期の対応と死後の身体の変化、死後の連絡	〃
14	終末期における医療職との連携	呼吸困難時、疼痛時における医療と介護の連携	〃
15		終末期における多職種連携	〃

【授業時間外の学習】 その日のうちに復習を行い、講義で指摘された箇所は確認し自己学習ノートにまとめておくこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は私語を慎み講義内容に集中し理解に努めること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30 (1号館事務所前)

【科目名】 成長と発達

【教員名】 細田 章

【教員の実務経験】 有

■無（研究実績と高等学校教員の経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】 ■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】 人間は誰しも生まれてから成長・発達を経て老いていく。この間、各ライフサイクルにおいて、さまざまな身体的・心理的・社会的変化が起きるが、それらについて原因や傾向、課題を学習し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 成長・発達に対する環境的要因の影響を理解している。
2. ピアジェ、エリクソン、バルテスそれぞれの発達理論を理解している。
3. 各期の発達段階における身体的、心理的、社会的機能それぞれについて理解している。
4. 高齢者の心理的、社会的課題について理解している

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会:最新介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】 なし

【成績評価】 ■定期試験（90%） 小テスト 課題レポート ■その他（演習課題 10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	成長発達の考え方、原則・法則	成長・発達と環境的要因の重要性、順序性と方向性	細田 章
2	成長・発達に影響する要因	遺伝的要因と環境的要因の影響に関する考え方	〃
3		遺伝的要因、ホルモンの影響、環境的要因	〃
4	発達理論	さまざまな発達理論（ピアジェ、エリクソン、バルテス）	〃
5	発達段階と発達課題	ライフサイクルの各期の発達段階	〃
6	身体機能の成長と発達	身体機能の成長・発達とそれに伴う疾病や障害	〃
7	心理的機能の発達	ピアジェの認知発達理論	〃
8		言語発達	〃
9	社会的機能の発達	社会性の発達（乳幼児期～青年期）	〃
10		愛着の発達、道徳・向社会的行動	〃
11	老年期の定義	さまざまな高齢者の定義	〃
12	老年期の発達課題	老年期の心理社会的葛藤と「古い」の価値転換	〃
13		喪失体験とセクシュアリティ	〃
14	老年期をめぐる今日的課題	少子高齢化と高齢者の多様性	〃
15	高齢者が歩んできた時代、まとめ	日本の高齢者が歩んできた時代について授業の振り返り	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加・発言をし、自身のこととして深く考えることを求める。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30（1号館事務室前）

【科目名】高齢者の健康

【教員名】細田 章

【教員の実務経験】有

無（研究実績と高等学校教員の経験を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】加齢に伴い身体的・心理的・社会的な変化が生じる。その結果として高齢者が抱える疾病や心理状況の変化による生活への影響について、原因や病態を学習し、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 老化によって起こる身体的・心理的・社会的変化のメカニズムと、それらの変化による生活への影響を理解している。
2. 高齢者における健康とはどのようなものかを理解している。
3. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点を理解し、どのように支援するか考えることができる。

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会:最新介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版. 中央法規出版, 2022

【参考書等】必要に応じて配布

【成績評価】定期試験（100%） 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響①	加齢による生理機能の全体的低下および、身体的機能として、骨格系、筋系の変化による日常生活への影響について学習する	細田 章
2	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響②	身体的機能として、脳・神経系、感覚器の低下と日常生活への影響について学習する	〃
3	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響③	身体的機能として、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系、免疫系の低下と日常生活への影響について学習する	〃
4	老化に伴う心理的な変化と生活への影響④	知覚機能、記憶機能、知的機能の変化が及ぼす心理的影響について学習する	〃
5	老化に伴う心理的な変化と生活への影響⑤	パーソナリティ（性格）の変化、老化と動機付け・適応について学習する	〃
6	老化に伴う社会的な変化と生活への影響⑥	社会の中での生活上の課題、高齢者の社会活動の現状と課題、社会における老化理論について学習する	〃
7	高齢者と健康	高齢者における健康について考えるとともに、高齢者に多い症状や疾患の特徴について学習する	〃
8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①	骨格系・筋系の疾患・症状について学習する	〃
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②	脳・神経系、皮膚、感覚器系の疾患・症状について学習する	〃

10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③	循環器系の疾患・症状について学習する	〃
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④	呼吸器系、消化器系の疾患・症状について学習する	〃
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤	腎・泌尿器系の疾患・症状について学習する	〃
13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥	内分泌・代謝系の疾患・症状について学習する	〃
14	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦	歯・口腔疾患、悪性新生物・感染症について学習する	〃
15	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点および保健医療職との連携	精神疾患、熱中症、貧血について学習する 保健医療職とのチームケアの必要性、保健医療職との連携のポイントについて学習する	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習には各 1 時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 常に集中して授業に臨むこと。他の学生の妨害になる行為は厳禁。演習では積極的に参加・発言をし、自身のこととして深く考えることを求める。

【オフィスアワー】 火曜日 16:30～17:30 (1 号館事務所前)

【科目名】障害の理解

【教員名】武田 英二、上田 清人、森本 博通、

【教員の実務経験】有

■無（医師資格及び経験を有する教員（武田）、介護福祉士資格及び実務経験のある教員（上田）実務経験のある教員（森本）が講義を行う。）

【授業方法】■講義 演習 実習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】障害のある人の心理や身体機能、社会的側面や制度に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害の医学的、心理的側面の基礎的理解をし、障害の特性に応じた支援を学習する。

【到達目標】学生が、障害者の社会参加や施策の変遷を理解し、障害者の身体機能や心理を学び、障害者に対するリハビリテーションや多職種連携について修得できることを到達目標とする。

【教科書】川井太加子・高木憲司編：最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第3版. 中央法規出版, 2026.

【参考書等】配布資料

【成績評価】■定期試験（100%）小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1P	障害の概念と福祉①	障害者スポーツの意義・理念、共生社会の創造と障害者の社会参加について理解する。介護保険制度	上田 清人
2	障害の概念と福祉②	障害者福祉制度と障害による心理的影響	森本 博通
3P	障害の概念と福祉③	障害の概念、障害者福祉の基本理念と制度施策とその変遷について理解する。 スポーツの諸施策（スポーツ基本法等）	上田 清人
4P	障害者の支援①	肢体不自由（運動機能障害）	〃
5P	障害者の支援②	視覚障害・聴覚・言語障害	〃
6	障害者の支援③	重複障害	武田 英二
7P	障害者の支援④	内部障害（心機能障害、呼吸機能障害）	〃
8P	障害者の支援⑤	内部障害（腎機能障害、膀胱・直腸機能障害）	〃
9	障害者の支援⑥	内部障害（小腸機能障害、肝臓機能障害）	〃
10	障害者の支援⑦	内部障害（ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、重症心身障害）	〃
11P	障害者の支援⑧	知的障害	森本 博通
12P	障害者の支援⑨	精神障害	〃
13	障害者の支援⑩	高次機能障害	武田 英二
14	障害者の支援⑪	発達障害	〃
15	障害者の支援⑫	難病	〃

【授業時間外の学習】講義で習った専門用語や内容を確認し、ノートにまとめること。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義には教科書、ノートを持参する。まじめに受講し、質問などにより講義内容の理解に努める。

【オフィスアワー】火曜日、水曜日、木曜日 16:30～17:30（上田・1号館事務所前）

【科目名】障害のある人への支援

【教員名】上田 清人、盛 裕二、森本 博通、小林 日登美

【教員の実務経験】 有

■無（介護福祉士資格及び実務経験のある教員（上田）、社会福祉士資格を有し、就労継続支援 B 型、地域包括支援センター、居宅介護支援等相談業務、介護保険施設等管理者及び経験を有する教員（盛）、就労継続支援 A 型事業所経営（森本）、社会福祉士で相談支援専門員資格及び実務経験のある教員（小林）が講義を行う。）

【授業方法】 ■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】障害のある人へのライフステージや、障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援を学ぶ。また、障害者を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的知識を学習する。加えて、障害のある人を支える家族支援についても学習する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 障害のある人の生活を理解した上で、障害のある人がどのような介護技術を必要としているのかを理解する。
2. 家族への支援として、障害のある人を取り巻く家族支援のあり方について理解する。
3. 連携と協働を図っていく上で、介護福祉士がチームアプローチを行う際に、どのような職種とどのようにアプローチを行うのかを理解する。

【教科書】川井太加子・高木憲司編：最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第3版. 中央法規出版, 2026

【参考書等】適宜、紹介します。

【成績評価】 ■定期試験（80%） 小テスト 課題レポート ■その他（発表 20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	連携と協働① 地域のサポート体制	オリエンテーション 連携と協働のために必要な知識・概念を確認する	上田 清人
2	連携と協働② 合理的配慮	「障害者の権利に関する条約」の位置づけを踏まえ、合理的配慮のポイントを理解する	〃
3	連携と協働③ 合理的配慮	事例を通じて、合理的配慮についてディスカッションし、合理的配慮のポイントを理解する	〃
4	連携と協働④ 合理的配慮	事例検討・発表	〃
5	連携と協働①	障害者差別解消法、地域のサポート体制とケアマネジメントについて理解する	盛 裕二
6	連携と協働②	事例検討（ソーシャルサービス） 連携協働する専門職種とその役割について理解を深める	〃
7	連携と協働③	チームアプローチとは何かについて、チーム作りの方法について理解する	〃
8	連携と協働④	チームアプローチについて、介護福祉士の価値、チーム力を上げていく為に、グループワークを通して理解する	森本 博通
9	連携と協働⑤	チームアプローチについて、グループワークで討議したことを発表する	〃
10	連携と協働⑥	障害福祉サービスの提供のしくみについて理解する。相談支援事業所との連携について理解する	小林 日登美

11	連携と協働⑦	基幹型相談支援センター、協議会、地域生活支援拠点との連携について理解する	〃
12	連携と協働⑧	医療的ケアの必要な方の外出支援について、グループワークを通して理解し、発表する	〃
13	家族への支援①	家族支援の基本的な知識を理解した上で、障害のある人を支える為に必要なことを討議し、「障害受容」について学ぶ	〃
14	家族への支援②	家族の状態の把握や介護負担の軽減を踏まえ、「家族支援」について理解する	上田 清人
15	家族への支援③	家族と障害者、環境との関係性に着目した支援を意識し、家族の介護力を踏まえた支援について学ぶ	〃

【授業時間外の学習】 授業の復習と次回学習の内容の教科書範囲を読むこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 介護福祉士資格取得を目標に、障害のある人、その家族の支援を、どのように介護することが必要かを考え続けられる人

【オフィスアワー】 授業内と授業後の休憩時間（上田・1号館事務所前）

【科目名】医療的ケア

【教員名】武田 英二、津田 祐子

演習：津田 祐子、幸坂 香代子、石田 ゆうき

【教員の実務経験】■有（医療現場での経験のある教員が、介護福祉士として必要な医療的ケア（吸引・経管栄養）についての知識、および技術についての講義・演習を行う。）
□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

（演習）喀痰吸引…（口腔・鼻腔・気管カニューレ） 各5回演習
経管栄養…（経鼻・胃瘻・腸瘻） 各5回演習

【学科・学年・期】介護福祉学科・2年・後期

【必／選・単位数（時間数）】必修・50時間（実時間）＋演習

【授業概要と目的】医療的ケアの実施をするうえで基礎となる考え方や関連する法律、チームの一員として介護福祉士が担う役割について概説する。また、喀痰吸引・経管栄養の知識・手順・留意点、および関連するケアについて安全にかつ確実な実施を行うために必要な学習をする。

【到達目標】喀痰吸引や経管栄養は、医行為であることを踏まえ基礎的な知識・技術を習得し安全に実施できるようになる。

【教科書】最新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第3版. 中央法規出版, 2026

【参考書等】適宜紹介します

【成績評価】■定期試験（100%）□小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	医療的ケアとは	オリエンテーション、医療的ケア・医行為とは、チーム医療について	津田 祐子
2	医療の倫理について	医療の倫理、倫理上の原則	〃
3	喀痰吸引等制度	医療制度とその変遷	〃
4	社会福祉士及び介護福祉士法の改正	改正法による喀痰吸引等制度の概要	〃
5	医療的ケアと喀痰吸引等の背景	喀痰吸引等研修、介護福祉士養成課程における医療的ケアの学習	〃
6	その他の制度①	社会福祉士及び介護福祉士法以外の法制度、介護保険制度	〃
7	その他の制度②	社会福祉士及び介護福祉士法以外の法制度、障害者総合支援法	〃
8	その他の制度③	社会福祉士及び介護福祉士法以外の法制度、健康保険法・学校教育法	〃
9	安全な療養生活	喀痰吸引や経管栄養の安全の実施	〃
10	救急蘇生	応急手当、救急蘇生法の実際	〃
11	AED	AEDを用いた心肺蘇生の流れ、演習	〃
12	清潔保持と感染予防①	感染予防、介護福祉職の感染予防	〃
13	清潔保持と感染予防②	療養環境の清潔、消毒法	〃
14	健康状態の把握①	身体・精神の健康、バイタルサインなど	〃
15	健康状態の把握②	急変状態について、まとめ	〃

16		消化器系のしくみとはたらき、消化吸収とよくある消化器症状	武田 英二
17		経管栄養法とは	〃
18	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	注入する内容に関する知識	〃
19		経管栄養実施上の留意点、子どもの経管栄養について	〃
20		経管栄養に関する感染と予防、経管栄養を受ける利用者、家族の気持ちと同意	〃
21		経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策 説明と同意	〃
22		経管栄養で用いる器具、機材とそのしくみ、清潔の保持	〃
23	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養に必要なケア	〃
24		報告及び記録	〃
25		経管栄養の技術と留意点	〃
26	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の概論	呼吸のしくみとはたらき・いつもと違う呼吸状態	津田 祐子
27		喀痰吸引とは	〃
28		人工呼吸器と吸引	〃
29		吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	〃
30		呼吸器系の感染と予防	〃
31		痰の吸引により生じる危険、事故の安全確認	〃
32		痰の吸引に伴うケアと報告および記録	〃
33		喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持について	〃
34		利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	〃
35		利用者の状態観察の注意点・吸引実施手順と留意点	〃

【授業時間外の学習】 その日のうちに復習をおこない講義で指摘された箇所は確認し自己学習ノートにまとめておくこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は私語を慎み講義内容に集中し理解に努めること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】 毎週月曜日の昼休み 12:30~13:00 (武田)